


提出 順番	No 3	平成25年 5月 27日 午前・ <u>午後</u> 5時00分受領
----------	---------	---------------------------------------

平成25年5月27日

幕別町議会議長 古川 稔 様

幕別町議会議員 齊藤 喜志 雄 

一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問事項	質問の要旨
<p>1. 町づくりと後期中等教育（高校教育）について。</p>	<p>本町の後期中等教育は、町内に公・私2高校があり、他町村に比べて子ども達の選択肢や間口には恵まれた環境にある。しかし、少子化の進行や、帯広一極集中が加速するなかで多くの課題を抱え、その存続すら危ぶまれる実態にある。</p> <p>さて、道教委は平成18年に策定した「新たな高校教育に関する指針」に基づき、中卒者数の減少傾向や教育水準の維持向上などを理由に、地域の実情、私立高校の配置状況などを勘案しながら、3年間を見通した定員の調整（間口削減）や、学校の再編整備（募集停止）などを行っている。特に、配置計画を策定したあと、入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し、1学級相当以上の欠員が生じた場合は配置計画を変更するものとしている。最近では、池田高が3学級から2学級、新得高が2学級から1学級に削減されたことは記憶に新しいところである。なお、「配置計画」により、1学級に削減された高校では、入学希望者数が激減する状況も見受けられると伺っている。</p> <p>そうしたなか道教委は4月1日、25年度の入試で、1学級分（40人）以上の欠員が生じた幕別高校（定員80人、欠員56人）と本別高校（定員80人、欠員42人）を含む全日制の道内公立高校12校で、1年生の学級を削減すると発表した。このことは「新たな指針」に照らすと、幕別高校も既に再編整備の対象校に該当していることを意味する。併せて、私学の江陵高校も懸命な経営努力にもかかわらず定員の確保は苦しい状況にあるとお聞きしている。今後とも中卒者数が総じて減少傾向にあることを踏まえると、両校とも存続の危機に一層拍車がかかるのではと心配される。</p> <p>仮に募集停止や統合によって地域から高校がなくなるような事</p>

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	<p>態があれば、その高校を必要とし、そこに学ぼうとする子ども達の願いや、保護者の期待を踏みにじるだけでなく、地域の経済や文化にも大きな影響を与えることは必至である。そうした意味合いでは、後期中等教育の充実・振興は、町づくりの重要かつ喫緊の課題と考える。以下、3点について所信をお伺いする。</p> <p>(1) 町内5中学校から幕別・江陵両高校・中札内高等養護学校幕別分校への入学者数について。</p> <p>(2) 幕別高校への入学者数が大幅に減った要因とその分析について。(含む、中札内高等養護幕別分校)</p> <p>(3) 町づくりの観点から公私2高校の充実や存続に向けた支援の在り方と施策について。</p>